

# 海洋科学分野の人材育成



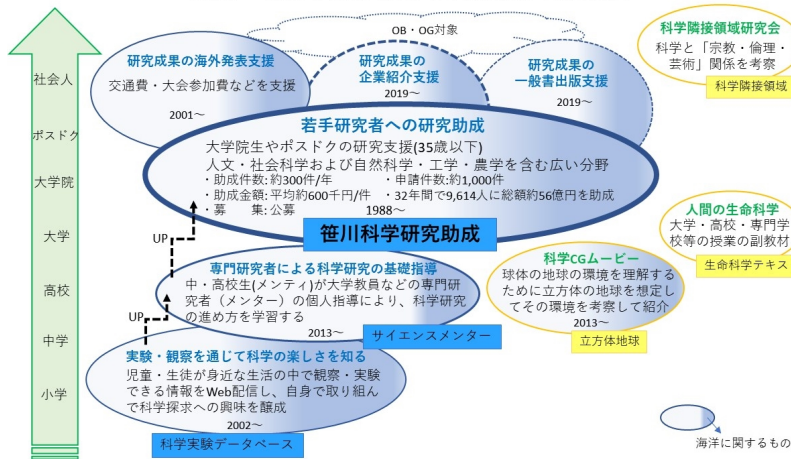
夢のある魅力的な海

## 笹川科学研究助成

期間: 1988年～  
機関: 公益財団法人日本科学協会

新規性、独創性または萌芽性豊かな若手研究者が行う研究助成と、その中でも特に陽の当たらない基礎的な研究分野を手厚く助成するという方針のもと、30年以上継続してきた事業です。全体で年間300名以上の若手研究者に2億円以上の研究費を助成しています。一般科学研究の5領域と実践研究のそれぞれに「海に関する研究」の特別枠を設け、我が国における海洋科学研究の推進に貢献してきました。助成を受けた研究者には、助成後も海外研究発表、研究内容の一般書出版、企業向けの研究発表などを通じて支援を継続します。

### 日本科学協会が実施している科学者・技術者の育成と科学・技術の普及に関する事業と相互の関連性



## サイエンスメンタープログラム

期間: 2013年～  
機関: 公益財団法人日本科学協会

科学自由研究に興味を持った全国の中・高校生(個人、グループ)を対象に、希望する研究計画を募集し、専門委員による書類審査・一次面談審査を実施し、パスした生徒(メンティ)は該当分野の専門研究者(大学、研究所など)の指導で研究計画作成後に二次面談審査により20件程度を採択し、メンターによる研究指導を6か月以上(メンティの希望により)行って、科学研究の基礎を教育します。毎年、複数件の海洋分野の研究計画が採択されています。



参考: 「サイエンスメンタープログラム」(日本科学協会、<https://www.jss.or.jp/fukyu/mentor>)

## 科学実験・原体験データベース

期間: 2002年～  
機関: 公益財団法人日本科学協会

身近な生活の中の科学的現象や自然や文化に関する情報を「科学実験データ」および「原体験コラム」としてWeb配信し、児童・生徒自身が自ら取り組んで科学探求への興味を醸成します。海に関する情報も含まれています。



参考: 「科学実験・原体験データベース」(日本科学協会、<http://proto-ex.com/old-index.html>)

# ユネスコスクール



夢のある魅力的な海

期間： -

機関：文部科学省

ユネスコスクールは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。現在、世界 180 か国以上の国・地域で 11,000 校以上のユネスコスクールがあり、日本国内の加盟校数は、2019 年 11 月時点において 1,120 校で、1 か国当たりの加盟校数としては、世界最大となっています。文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールを ESD の推進拠点として位置付けています。ESD は SDGs の 17 すべての目標の実現の鍵であることから、日本のユネスコスクールでは、SDG4(教育)だけでなく、SDG6(水)、SDG13(気候変動)、SDG14(海洋資源)、SDG15(陸上資源)等を通じて、海洋教育をはじめとした様々な取組みが行われています。また、2009 年よりユネスコスクール全国大会/ESD 研究大会が毎年開催されており、学校教育におけるESDの推進や国内外の学校と生徒間・教師間の交流事例など、優良事例の共有が図られています。



世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産・三池港での学習



干潟観察

# 海洋教育パイオニアスクール事業



夢のある魅力的な海

期間：2016 年～

機関：公益財団法人日本財団、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター、  
公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所

子どもたちが海にもっと親しみ、理解を深め、自分たちの力で海を守ってゆく、そんな新しい学びを日本中の学校に広げたい―「海洋教育パイオニアスクールプログラム」はこれからの学びに役立つ可能性を秘める海の学びに取り組もうとする学校や先生の活動を支援するプログラムです。日本財団、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター、笹川平和財団海洋政策研究所の3者が協力して2016年度より行っています。2019年度には195校の海洋教育の取組みを対象に助成しました。



海洋教育パイオニアスクールプログラムのウェブサイト

(<https://www.spf.org/pioneerschool/>)

# 海洋教育研究拠点形成事業 及び全国海洋教育サミットの開催



夢のある魅力的な海

期間: 2013年～

機関: 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター、公益財団法人日本財団

東京大学と全国自治体とが協定を結び、初等中等教育における海洋リテラシー教育の展開を協同して進めています。一例として、宮城県気仙沼市では市の教育施策として、就学前教育から高校までの体系的なカリキュラム構築を進めており、沖縄県竹富町では町の教育施策として、海洋教育基本計画を策定するなど、地域全体での体制づくりを進めています。最終的に、地域発の海洋リテラシーの構築を目指しています。現在、海洋教育研究拠点は、上記の二つをふくめ、全国に4カ所、設置されています。

また、全国の海洋教育の実践者や研究者、児童・生徒など、約500名が一堂に会し、海洋教育について議論するイベントを、年に一度開催しています。このサミットでは、参加者同士が自分たちの実践事例や研究について発表・交流し、さまざまな疑問や課題について意見交換をすることで、海洋教育の促進とネットワーク構築を図っています。



第7回全国海洋教育サミット(2020年2月15日)の様子

参考:「東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター」ウェブサイト  
(<https://www.cole.p.u-tokyo.ac.jp/>)



きれいな海



生産的な海



安全な海



万人に開かれた海

## コラム

### 海で活躍する女性のためのプロジェクト

日本の海洋に関する職場は、女性の割合が低く、特に海に出る仕事がある職場ではとても低くなっています。国土交通省「輝け！フネージョ」、水産庁「海の宝！水産女子の元気プロジェクト」、海上保安庁での女性海上保安官の職域拡大と役職就任の増加、海洋研究開発機構の女性管理職の増加、いずれも女性の就労および活躍の推進を支援します。



国土交通省



水産庁ウェブサイト



海上保安学校ウェブサイト

参考: 国土交通省 [https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime\\_tk5\\_000060.html](https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk5_000060.html)  
 水産庁 <https://www.jfa.maff.go.jp/j/kenkyu/suisanjoshi/181213.html>  
 海上保安庁 [https://www.kaiho.mlit.go.jp/school/elements/sub\\_women/women.html](https://www.kaiho.mlit.go.jp/school/elements/sub_women/women.html)

この事例集は、ポートルースの交付金による日本財団の助成金を受けて作成しました。

国連海洋科学の10年 我が国の取組み事例集

2021年3月発行

発行 日本海洋政策学会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-16 笹川平和財団ビル 6階

TEL/FAX 03-6457-9701 <https://www.oceanpolicy.jp>

公益財団法人笹川平和財団海洋政策研究所 (OPRI-SPF)

〒105-8524 東京都港区虎ノ門 1-15-16 笹川平和財団ビル 6階

TEL 03-5157-5210 FAX 03-5157-5230

<https://www.spf.org/opri/>

制作 いであ株式会社

事例集の無断転載、複写、複製を禁じます。



2021 United Nations Decade  
of Ocean Science  
2030 for Sustainable Development